

競技注意事項

1. 規則について

本大会は 2022 年度日本陸上競技連盟規則並びに本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 練習について

(1)ウォーミングアップおよび練習は、補助競技場・雨天練習場・投てき練習場を使用すること。

(2)練習場の使用については、役員の指示に従い、安全に留意すること。

(3)本競技場内における競技前の練習は、競技開始 30 分前までとし、すべて競技役員の指示に従って行うこと。ただし、2 日目に行われる開会式は 9:00 より行われるので練習は 8:40 までとし、開会式の時間帯は練習を禁止とする。

(4)前日練習について

① 博多の森補助競技場、投てき練習場を使用することができる。

② 使用できるのは、9:00~19:00 までとし、個人使用とする(使用料は一人 200 円)。

③ 各大学の責任のもと行うこと。万が一事故等が発生した場合でも、本連盟は責任を負わない。

(5)補助競技場について

① 補助競技場における練習については左回りとし、トラック内での逆走は禁止する。

② ハードルの使用については、110mH は 8、9 レーン、100mH は 7 レーン、男子 400mH は 6 レーン、女子 400mH は 5 レーンを使用すること。その他のレーンでハードルを使用することは禁止する。

③ スターティングブロックを使用する際は周りに注意を払い、安全に留意すること。

④ 補助競技場内でのテントの設置は禁止する。

(6)投てきの練習について

① 練習については、役員の指示に従うこと。

② 公式練習は全種目、本競技場内で審判の指示により行う。

③ やり投は招集の後、本競技場内で練習ならびに公式練習を行う。

(7)雨天練習場について

① 100m スタート方向から一方通行とし、戻る際は 100m スタート側からみて、左端を通行すること。

② 走練習のみとし、ハードル・スターティングブロックの使用は厳禁とする。

③ 各校の控室としての使用は禁止する。

3. 競技場使用の注意

(1)ゴミ袋を学校受付の際に配布するので、清掃を徹底し、ゴミは各大学が責任を持って持ち帰ること。

(2)更衣の際は正面玄関入って右手奥にある更衣室を利用すること。更衣室での場所取りは禁止する。また、荷物は各大学で責任を持って管理すること。

* 更衣室では原則1部屋5名以内とし、場所取り・ロッカーの使用は禁止する。また、荷物は各大学で責任をもって管理すること。

(3)バックスタンドは 3 日間とも解放する。全体応援は、禁止とする。

(4)メインスタンド通路での立ち見は禁止とする。

- (5)メインスタンドでの部旗・横断幕の掲出は一般観衆の妨げとなるため禁止する。
バックスタンドでの掲出は認めるが、解放時間は3日間を通して開門後とする。ただし、中央聖火台付近のロープで区切られた区域への侵入、部旗・横断幕の掲出は禁止する。掲出の際は必ず紐のみを使用し、ガムテープ等の使用は禁止する。
- (6)場所取りに関しては開門以降に行うこと、ブルーシートは各日持ち帰り、次の日の場所取りは行わないこと。また、他の利用者の通行の妨げにならないようにすること。
新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、競技者は、競技時間に合わせて競技場に立ち入り、競技終了次第帰ること。競技場退出時には、すべての持参物を持ち帰ること。
- (7)シートの固定等で競技場内においてテープを使用する場合は、養生テープのみに限定し、その他のテープ類(ガムテープ等)の使用は堅く禁止する。
- (8)**開門前、閉門後に許可なく競技場内、スタンド内に侵入している大学を発見した場合、厳重に注意し、その大学の以降の出場を認めない場合がある。**
- (9)競技場は全天候舗装型であるため、使用するピンの長さは9mm以下、走高跳・やり投については12mm以下とする。
- (10)当該競技の出場者以外はトラック・フィールド内に立ち入ってはならない。注意に従わない場合、同校の競技の出場を認めない場合がある。
- (11)競技場内において競技者は助力と見なされるビデオ、カセットレコーダー、ラジオ、CD・MDプレーヤー、トランシーバーや携帯電話、スマートフォン、もしくはそれに類似するものを使用する、または所持することも禁止する。勧告を受け入れられない場合は失格となる。
なお、その他競技者に対する助力については競技規則TR6条を適用する。
- (12)医務室は競技場内に設ける。なお、大会期間中において起こった怪我に対しては主催者側が応急手当を行うが、それ以降の治療に対しては一切責任を負わない。ただし、出場者は原則として、スポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。**必ず保険証のコピーを持参すること。なお、新型コロナウイルス感染症はスポーツ安全保険の適用対象外である。**
- (13)メインスタンド下の競技場内通路は関係者以外の進入を禁止する。
- (14)スパイクで競技場内通路を通行することは厳禁とする。
- (15)貴重品の管理は各大学および各個人で責任を持って行うこと。盗難・紛失について主催者は一切責任を負わない。拾得物があった場合については、インフォメーション・センターにて一時保管する。
- (16)開閉門時間は以下の通りである。ただし、予告なく変更する場合がある。
また、以下の記載開門時間より早く競技場内には立ち入らないこと。

期 日	開門時間	閉門時間
5月20日(金)	9:00	17:30
5月21日(土)	8:00	18:00
5月22日(日)	8:00	17:30

4. 招集について

(1)招集所の場所については(別記)競技場図を参考にすること

(2)招集の方法について

※シューズに関しては、競技注意事項別記の「靴底の厚さに関するルール改定」を必ず確認すること。

・スタート地点到着後に、各競技現地で最終コールを行う。

(3)代理人による招集は認めない。ただし、他の種目と招集時間および競技時間が重複する場合は、招集所に重複届を提出すること。

(4)混成種目の招集は2日間とも各日最初の種目に限り招集所にて行う。で行う。以降の種目については現地にて招集を受けること。混成競技者控室は第1ゲート側更衣室に設ける。

(5)リレーのオーダーについては、メンバーおよびオーダーの変更の有無に関わらず、ラウンド毎にオーダー用紙(インフォメーション・センターに用意)をインフォメーション・センターと招集所に提出すること。提出締切は招集完了時刻の1時間前とし、遅れた場合出場を認めない。怪我等によるこれ以降の変更は、主催者の任命した医務員の判断がない限り認められない。また、招集開始時刻になり次第、全員で招集を受けること。

(6)商標について2022年度陸上競技ルールブック「競技会における広告および展示物に関する規程」に従い、招集所にてチェックを行う。

(7)招集完了時刻に遅れた競技者は出場を認めないので十分に注意すること。

(8)招集時間は競技日程を参照すること。

	トラック種目	棒高跳	その他フィールド種目
招集開始時刻	競技開始40分前	競技開始90分前	競技開始60分前
招集完了時刻	競技開始30分前	競技開始80分前	競技開始50分前

5. 欠場について

競技参加者の欠場については、大会の運営の円滑を期するため極力避けること。やむを得ず欠場となる場合は以下の要領で申し出ること。

(1)大会4日前(5月16日)までに欠場が判明している場合は、本連盟ホームページより Google ホームを、5月16日(月)23:59までに本連盟事務所に提出すること。

(2)上記期日以降にやむを得ず欠場となる場合には、不出場届(インフォメーション・センターに用意)に必要事項を記入の上、招集所及びインフォメーション・センターに提出し、承認を得ること。なお、この手続きを行えば、その競技者は以降の競技に出場できる。

(3)無断棄権に関しては、以後の大会の出場を認めないなどの厳しい処分を課す場合がある。

6. アスリートビブスについて

- (1)アスリートビブスは2022年度九州学連指定の登録アスリートビブスを着用すること。
- (2)アスリートビブスはユニフォームの胸と背に確実につけること。ただし、跳躍競技に出場する選手は、胸・背のいずれかにつければよい。アスリートビブスの折曲げは禁止する。
- (3)トラック競技は写真判定機を使用するため、トラック競技者は主催者の用意する腰ナンバーカードを右腰やや後方に、数字が見えるようにつけること。ただし、男女 3000mSC、男女 5000m、男女 10000m、男女 10000mW については両腰につけること。腰ナンバーカードは使い捨てのものを使用する。そのため、フィニッシュ後、係員に返却する必要はない。

7. 競技の抽選・番組編成について

- (1)トラック競技の準決勝以降の組み合わせは、主催者が公平に抽選し、決まり次第招集所および速報サイトに掲載する。記録掲示板には掲示しないので注意すること。
- (2)トラック種目における次のラウンドへのプラス選出の際に、同記録が複数出た場合、写真判定により1000分の1秒まで拡大し、「着差あり」まで判定する。それでも判定できない場合には、本人または代理人によって公平に抽選を行い、決定する。ただし、1500m、3000mSCの場合は該当者全員が次のラウンドに進出できる。※競技規則TR20を参照のこと。
- (3)写真判定機故障の場合、その種目の当該ラウンドを全組、手動計時に変更する場合がある。

8. トラック種目について

- (1)不正スタートに関しては、競技規則「TR16の6.7.8.9.10」の適用により失格とする。
- (2)スタートの合図は **”On Your Marks”、”Set”** で行う。
- (3)短距離種目では競技者の安全のため、フィニッシュ後も自分のレーンを走ること。
- (4)リレー種目について
 - ①各大学同一のユニフォームを着用すること。この時、デザインが同じものを着用すれば、スパッツ、ランニングパンツの区別は設けない。
 - ②全ラウンドにおいて、最初に編成して申し込んだメンバーの中から最低2名は出場しなければならない。それ以外の2名はプログラムに記載のある選手であれば、予選ラウンドから出場できる。
 - ③次ラウンドにおける交代は2名以内でなければならない。なお、出場チーム数の都合上、単一ラウンド(決勝のみ)となった場合、次のラウンドに進んだものとする。※TR24の10参照のこと。
 - ④4×100mリレーに使用するマークテープは本連盟が用意したものをを使用すること。マークテープは招集所にて配布する。※TR24参照のこと。
- (5)男子5000m、10000mについてはタイムレース決勝とする。
- (6)男女10000m、男女10000mWについては、給水を設置する。また、男女5000mについては、気象条件により設置する場合がある。

(7)男女5000m、男女10000m、男女10000mWについては下記の設定時間でゴールに達しない選手は競技者がどの段階にあっても速やかに競技を中止させる。ただし、下記の設定時間を過ぎても上位8名がフィニッシュするまでは競技を続行する。

男子		女子	
5000m	18'00"	5000m	21'00"
10000m	35'00"	10000m	42'00"
10000mW	55'00"	10000mW	65'00"

(8)男女5000m、男女10000mについては当日の状況を見て、インレーン、アウトレーンへの振り分けを行う。役員の指示に従うこと。

(9)男女5000m、男女10000mについてはフィニッシュの際に、4レーンより外側のレーンでゴールすること。

(10)男女3000mSCについてはランニングシューズでの出場は認めない。

9. フィールド種目について

(1)跳躍種目のバーの上げ方は原則として以下の通りとする。

種目・種別		練習	バーの上げ方
走高跳	男子	1m80、2m10	1m75-1m80(5cm刻み)-2m10-(3cm刻み)
	女子	1m40、1m60	1m35-(5cm刻み)-1m65-(4cm刻み)-1m69-(3cm刻み)
	十種	1m45、1m85	1m50(5cm刻み)-1m80-1m85-1m90-(3cm刻み)
	七種	1m15、1m50	1m20-(5cm刻み)
棒高跳	男子	3m90、4m40	3m80-3m90-(10cm刻み)
	女子	2m70、3m30	2m50-2m60-(10cm刻み)
	十種	2m80、4m00	2m30-(30cm刻み)-3m20-(20cm刻み)-3m80-(10cm刻み)

※同成績の場合は競技規則TR26.8を適用する。

(2)走高跳・棒高跳の練習の高さは当日、選手と審判員の協議により設定する。また、悪天候などの不測の事態が発生した場合は、総務・審判長・九州学連の協議により設定の高さを変更し競技を行う場合がある。

(3)走幅跳は、男子・女子ともに2ピットで競技を行う。

(4)男子三段跳は2ピット(ともに13m)、女子三段跳は1ピット(10m)で行う。ただし、女子三段跳は状況に応じて2ピットに変更する可能性がある。

(5)男子走幅跳・三段跳については、円滑な運営のため、以下の記録に達していない場合は計測を行わない。ただし、ベスト8については順位を決定させるためにすべて計測を行う。

	走幅跳	三段跳
男子	6m40	13m50

(6)2019年4月1日より跳躍に関する規定が変わったので十分注意すること。日本陸連「TR25総則
フィールド競技 試技時間」(陸上競技ルールブック2022 188ページ)～(前略)～つぎの試技時間は
通常の場合超えてはならない。試技時間を越えたらTR25.18を除き、無効試技として記録する。

単独種目

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	1分	1分	1分
2～3人以上	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技※	2分	3分	2分

※4人以上または各競技者の最初の試技

※走高跳・棒高跳では、残っている競技者が2人以上、同一の高さのみ適用する。

混成競技

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	1分	1分	1分
2～3人以上	1分30秒	2分	1分
1人または連続試技※	2分	3分	2分

※4人以上または各競技者の最初の試技

※残っている競技者に関係なく適用し、走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。

10. 混成競技について

- (1)招集は、各日最初の種目に限り招集所にて行う。それ以降の招集は現地にて行うので、次の競技まで
は混成競技者控室にて待機し、競技役員の指示に従って行動すること。
- (2)混成競技者控室として第1ゲート側の更衣室を使用する。該当種目の競技者及び競技役員以外の混
成競技者控室への立ち入りは一切禁止とする。
- (3)跳躍種目は1ピットで行う。

11. 対校得点・表彰について

- (1)各種目の得点は、1位8点、2位7点、3位6点、…、8位1点の8点制とする。
- (2)総合得点が同点の場合、優勝種目の多い大学を上位とする。優勝種目が同数の場合は2位種目、
3位種目、…、8位種目を各々比較し、より多い大学を上位とする。
- (3)各種目3位までに入賞した選手は競技終了後直ちに表彰を行うので、本部横の入賞者控室に集合
し、表彰係の指示に従うこと。入賞者が集合できない場合は、代理人を出すこと。また、表彰時の服装
は、上半身はユニフォーム、下半身は各大学のジャージまたはウィンドブレーカーとする。(予定)
- (4)閉会式において、成績の優れた男女1名を最優秀選手として表彰し、最優秀選手賞とトロフィーを授
与する。(予定)
- (5)競技者が8名に満たない種目についても8点制とする。

12. 用器具について

- (1)用器具はすべて競技場備え付けのものを使用する。ただし、棒高跳用のポールについては、競技場備え付けのものがないため、個人のもを持参すること。さらに、やり、円盤、砲丸、ハンマーについては、検定を受けて合格したものは、個人のもを使用してよい。各自が持ち込んだ棒高跳用のポール及びやり、円盤、砲丸、ハンマーについては、その他の競技者にも使用できるものとする。そして、持参した棒高跳用のポール及びやり、円盤、砲丸、ハンマーは、競技当日の招集開始時刻から招集完了時刻までに 100m スタート付近の用器具倉庫にて検査を行う。ただし、使用の際の破損などによる事故発生の場合、使用した当該競技者が責任を負うものとする。この場合、主催者はその責任を負わない。
- (2)新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、滑り止め(炭酸マグネシウム)については、共有しない方法で実施する。そのため、主催者は、滑り止め(炭酸マグネシウム)を用意しない。競技者は必要に応じて必ず滑り止め(炭酸マグネシウム)を持参し、使用すること。なお、松ヤニの使用は禁止する。

13. 抗議について

- (1)抗議は競技規則TR8条の2に基づき、アナウンスで正式に結果が発表されてから30分以内に、次のラウンドが行われる種目ではその結果が発表されてから15分以内に競技者自身または代理人が総務に申し出る。
- (2)審判長の裁定不服の場合には、その競技者に代わる責任者より上訴申立書と預託金(10,000円)を添えて、正式な手続きをとる。この預託金は抗議が受け入れられなかった場合、没収される。

14. 商標について

2022年度陸上競技審判ハンドブック「競技会における広告および展示物に関する規程」に従い、招集所にてチェックを行う。

15. 各書類提出先について

書類名	配布場所	提出先・依頼先
不出場届	インフォメーション・センター	招集所及びインフォメーション・センター
重複出場届	招集所	招集所
リレーオーダー用紙	インフォメーション・センター	招集所及びインフォメーション・センター
記録証明書	インフォメーション・センター	インフォメーション・センター
上訴申立書	学連本部(要預託金)	学連本部(要預託金)

16. その他

(1)オープン参加選手は予選ラウンドのみ出場とし、決勝のみの種目に参加した場合でも、順位は記録しない(フィールド種目についても同様)。

(2)記録証明書を希望する競技者は、300円を添えてインフォメーション・センターまで申し込むこと。

(3)競技場内での写真、ビデオの撮影については選手のプライバシー及び肖像権を保護するため大会関係者及び主催者に許可された者以外の撮影は禁止する。盗撮防止のため、大会役員が声をかけることがあるが、その場合は速やかに許可証を提示すること。また、許可なく撮影している者を発見し次第、厳重に処分する。

(4)新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、練習及び招集、競技中など本大会に関わるすべての行為について、競技者への付き添いを禁止する。

(5)競技結果等は記録処理終了後に随時、本プログラム P.39 に掲載する大会速報サイトにて発表を行う。記録掲示は行わない。

(6)主催者は、個人情報の保護に関する法律および関連法令等を厳守し、個人情報を取り扱う。なお、取得した個人情報は、大会の参加審査、プログラムの編成及び作成、記録発表、公式ホームページその他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。

(7)加盟校は学生審判補助員を派遣しなければならない。

※以上の内容以外でも、特別に役員から指示があった場合必ず従わなければならない。

(8)**選手の競技場所への入退場は、第4ゲートからとする。トラック競技ではゴール後、ゴールエリアで休息等をしないこと。**

(別記)

競技注意事項
靴底の厚さに関するルール改定

WA のルール改定に伴い、本連盟主催競技会についても以下に示す基準を満たしていないシューズを身に着ける競技者の出場を認めない。

種目	ソールの最大の厚さ (TR5.5、注意(i)、(ii)、(iii)及び TR5.5 の図(a)並びに(b) TR5.13.3 に基づく)	補足
フィールド種目 (三段跳除く)	20mm	全ての投てき種目、高さの跳躍及び、三段跳を除く長さの跳躍種目に適用。全てのフィールド種目において、競技者の前の部分の中心点のソール厚さは、競技者のかかとの中心点のソール厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	競技者の前の部分の中心点のソール厚さは、競技者のかかとの中心点のソール厚さを超えてはならない。
800m 未満のトラック種目 (ハードル種目を含む)	20mm	リレーにおいては、各走者の距離で本規則が適用される。
800m 以上のトラック種目	25mm	リレーにおいては、各走者の距離で本規則が適用される。

TR5.13 注意

- (i) 規則 143 条(TR5)13(a)の「1 つの剛性プレートまたはブレード」は、複数のパーツで構成される場合があるが、それらのパーツは、平行ではなく(例:個々のパーツは互いに上に積み重ねない)、1 つの平面に連続して配置しなければならない。※現行のルールブックに掲載の内容と変更なし。

(別記)

競技注意事項 加盟校の皆様へのお願い

本年度は大会要項(別記)でお示した通り、新型コロナウイルス感染予防対策に則り、競技会を運営していくことを了承の上、大会にご参加ください。また、各大学が示している課外活動に関するガイドライン等を遵守し、参加について判断するようお願いいたします。なお、新型コロナウイルスの感染防止対策には万全を期しますが万が一、感染してしまったとしても、主催者は責任を負うことができませんのでご了承ください。

大会要項(別記)の「第92回九州学生陸上競技対校選手権大会 新型コロナウイルス感染症への留意点」に加え、以下の留意点につきまして遵守していただきますよう、ご協力をお願いいたします。

1. 体調管理について

(1)大会への参加について

各大学は、参加者全員(審判補助員、競技者、参加申請した指導者・コーチ)に大会前と大会後の「**体調管理チェックシート**」を記入させ、体調の把握をしてください。なお、体調不良者は競技会に参加させず、競技場にも来場させないでください。

(2)競技会参加のための健康チェックシート【提出用】について

大会当日の学校受付時に、各大学代表者は大会主催者が用意した「**競技会参加のための健康チェックシート【提出用】**」を、テクニカルインフォメーションセンターに提出してください。提出がない場合は、競技会への参加を認めません。

(3)体調管理チェックシート大会前【保管用】について

各大学は、2週間分の「**体調管理チェックシート大会前【保管用】**」を作成、収集し、本連盟が提出を求めた場合には、遅滞なく提出できるようにしてください。なお、最後に記入した日から最低1カ月間は各大学で保管してください。

(4)体調管理チェックシート大会後【保管用】について

競技会終了後、2週間以内に発熱などの症状があった場合、保健所、主催者へ報告するようお願いいたします。なお、2週間分の「**体調管理チェックシート大会後【保管用】**」に各自記入し、最後に記入した日から最低1カ月保管してください。

***「体調管理チェックシート」、「競技会参加のための健康チェックシート」は
本連盟ホームページからダウンロードすること。**

2. 参加者が競技を行う際の留意点

(1)基本的注意事項

- ① 招集所では他の競技者とのソーシャルディスタンスを確保し、マスクを着用して招集を受けること。
- ② 競技場内外を問わず、唾や痰を吐く行為は行わないこと。
- ③ タオルの共用はせず各自で持参すること。
- ④ 待機場所では、周囲の人とソーシャルディスタンスを確保し大声で会話をしないこと。
- ⑤ 競技中などに競技者が倒れた場合は直接触れることをせず、医務室や大会本部へ連絡すること。ただし、緊急を要する場合は、その限りではない。

(2)トラック競技

- ①レース中はマスクを着ける必要はないが、招集中・移動中・待機中は着用すること。なお、マスク着用による熱中症にも注意すること。
- ②レース終了後の手洗い、洗顔等を徹底すること。

(3)フィールド競技

- ①待機場所における競技者同士のソーシャルディスタンスを確保すること。
- ②投てき器具については共用となるので、使用後は手指消毒を徹底すること。また、競技中に不用意に手で顔を触らないよう注意すること。なお、終了後には入念な手洗いや手指消毒を行うこと。
- ③助走練習、投てき練習時には、ソーシャルディスタンスを確保するために競技役員が1人ずつ順番に呼び出すので、その指示に従うこと。
- ④競技者同士の会話は原則として禁止する。試技以外の待機中は、必ずマスクを着用すること。なお、マスク着用による熱中症にも注意すること。

3. その他の留意点

(1)マスク等の準備

入場時に競技会参加者がマスクを準備しているか確認する。入場時にマスクを着用していない者は、競技場内への入場を許可しないので注意すること。参加者が、運動・スポーツを行っていない間、特に会話するときには、マスクの着用を指示する。

(2)手洗いの実施

- ①手洗いは、30秒以上行うこと。石鹸は競技場にも準備する。
- ②手をふくためのタオル等を共用しないこと。
- ③手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を使用しこまめに消毒すること。競技場にも準備するが、できるだけ各自で持参すること。

(3)洗面所(トイレ)の使用

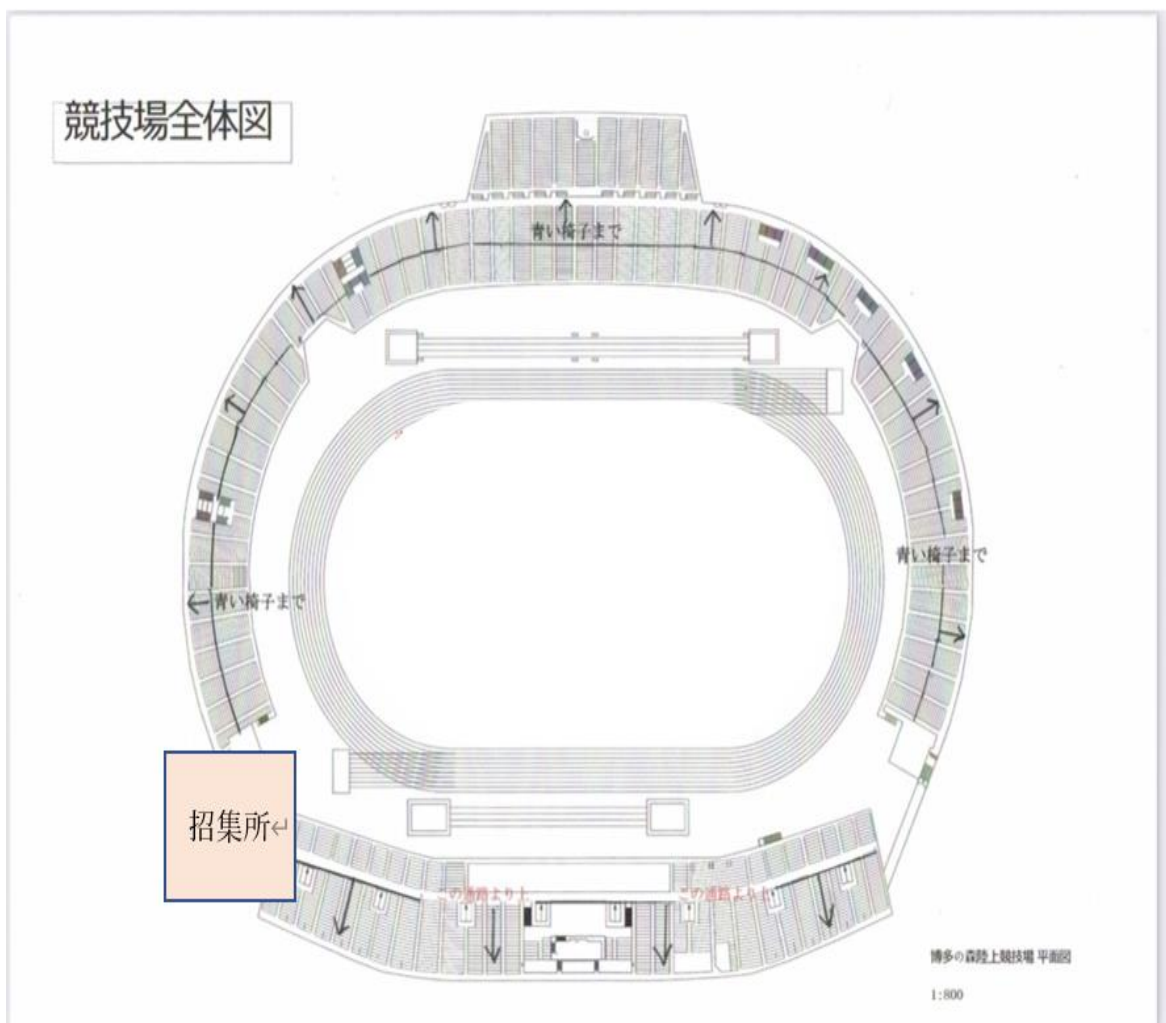
- ①トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所(ドアノブ、水洗トイレのレバー)を使用した場合は、こまめに手洗いをすること。
- ②トイレの便器に蓋がある場合は、必ず蓋を閉めて汚物を流すようすること。
- ③手洗いは、石鹸等を使用し30秒以上行うようにすること。
- ④手をふくためのタオル等は各自で準備すること。

(4)その他

- ①宿泊施設や公共交通機関等の移動においても3密の回避など感染予防を徹底すること。
- ②競技会へ出場する選手のみでの参加とするため、応援、付き添いのためだけの者は来場させないこと。
なお、集団での場所取りや声を出しての応援は固く禁止する。
- ③コーチがコーチングエリアから競技者に向かって話す際は、マスク着用の上、話すようにすること。

(別記)

競技注意事項
招集所の場所

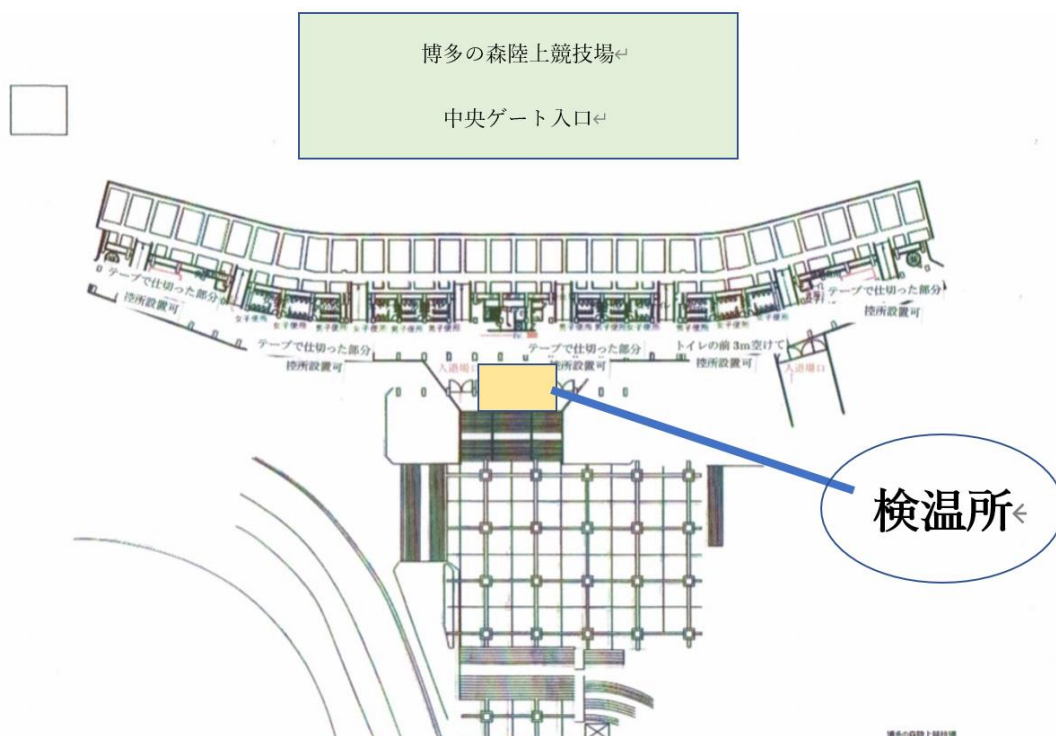


招集所の場所は上記の通りとする。

場所はホームスタンドの100mのスタート付近とする。

(別記)

競技注意事項
検温所の場所



検温所の場所は上記の通りとする

競技場内に入場する際には、必ず上記の場所で検温を行い、

検温所で、配布されるネームプレートに名前を記入してシールをもらうこと。

尚、この際に本連盟のホームページに掲載されたGoogleフォームを事前に回答しておき、

回答完了画面を見せること。